

「観光名所で朝市」提言

酒田の若手 交流人口拡大めざす

山形県酒田市の将来ビジョンを若者が考えるグループ「酒田未来塾」は酒田市を訪れる人を増やす目的で、市内一の観光スポットの山居（さんぎ）園に立ち寄る年

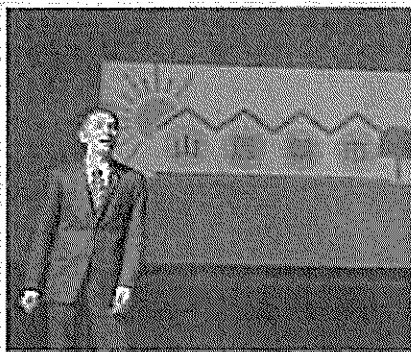
（よ）倉庫で朝市を定期開催するなどの提言をまとめた。次代を担う若手が自分が暮らすまちの将来像を話し合い、街づくりを目指す動きは全国的に

あまり例がないという。提言では、定住人口や交流人口の拡大などに必要な解決策を示した。コメや野菜、海産物が

園に立ち寄る年
えている」（八
公園管理課）。
リスマスイベン
が餌をアレゼン
動物の数と種類
り増やす。
ウ並木をイルミ
ンが限らず、こ

水族館の杜 うみ 水槽に電飾

半透明な魚を泳がせる。青葉通一番町駅と地下2階で直結する百貨店の藤崎（仙台市）では人間そっくりな東芝製コミュニケーションロボット「地平アイ（さん）」が13日まで客を迎え、関連の力



未来ビジョンを発表する「酒田未来塾」メンバー

秋田「鶏」



青森「海」

東日本各地の59の駅弁を対象に10、11月に専用はがき（封）を募集し、味や彩り、掛け紙など6項目についてポイント制で集計した。投票数

豊富な酒田市では出産前の女性が健康的な食生活を送れる点を強調し「妊娠」から子育て環境が良くなる街とアピールする。観光客呼び込みでは、野菜や果物の産地直売市場と地元料理を提供する屋台を組み合わせた山居朝市の定期開催を目指す。地産地消を促す一過性の行事はあるが、地域の産品を継続的に提供で

きる場がないためだ。交流サイトなどを活用し、市民全員が広報担当になれると訴えた。現在は行政や団体がばらばらに情報発信し、街の魅力が伝わりにくいという。酒田未来塾は「自分たちのまちは自分たちで創る」を合言葉に今春発足。リッチ&ガーデンホテル酒田の熊谷芳則社長が呼びかけ、酒田商工会議所

が主催、酒田市が共催した。メンバーは市内の民間企業や市役所に勤務する36人で、地元出身ではない人を含む。大型商業施設のマーケティングや神奈川県小田原市、富山市、熊本市などでまちづくりのコンサルティング経験のある松本大地・商い創造研究所代表を塾長に招き、月1回議論を重ねてきた。